

いの流水俳壇

松尾 満津於選

「当季雜詠」

麴の匂い祖父母のお膳箱

川村 博子

(評)麴は、米・大豆・麦等を炒り碎いて粉にひいたもの。農村の食事する状態は、昔と現今では全く異なっていた。広い食卓の上に食材と食器を並べ、食べ終わったらその都度食器を洗って始末する、そんな手間暇をかけた食事をするとはなかった。

家族一人一人に定まった食器とそれを収納する容れ物箱があったのである。その箱の中には食事の残り物で次の食事のときにも食べられるものや、皿、茶碗、コップ、箸等夫々自分の持ち物は全部一つの木箱に収納した、この箱がいわゆる膳箱である。麴粉は暫く日持ちできたので、膳箱の中にある時間も長かったであろう、そんな祖父母のあった家庭環境の中で育った作者。現代の暮らしから考えると、ウソのようなホントの話。平成の今を生きる、若老のロマンの句である。巧みな句で作者に身がまえたところがない作品である。

街割れる鳴子踊りや土佐の夏

大川 節弥

(評)よさこい鳴子踊りにはじまる土佐の夏。今更解説を加えるのは全く蛇足であろう。どんな言葉を弄しても、あの迫力は出て来ない。そんならどうすらアーと問われれば「マァー一ぺん踊りを見てみいや」と応えるしかないであろう。そんな土佐の夏が「街割れる」に象徴された句。

父の汗見て三人の子等育つ

小島 良

(評)作者の実感がそのまま作品になった句である。俳句には、名句とか秀句とかいう評価とは別に、好きな句というものが誰にでもある。上手とか下手ということとは別に、目に見えぬ心の表現というものに引かされる。作品のこころは子の育つ姿にあり注釈は要らない、そっくりそのままの句である。

音絶えて久しき工場蟬時雨

松岡きよ子

同姓の寄進名多き蟬しぐれ

岡本とも子

蟲干や古きものほど捨て難し

竹崎 光子

山峡の空を広げて大火花

片岡 包女

炎天にはじけはずんで鳴子かな

渡辺万利子

雲の峯何か動めきいる様な

川村 愛

こつこつと盛夏を歩く八十路かな

簡井 眉躬

老鶯の声よく透る県境

川上こよね

小気味よき音して西瓜真二つ

津田 久美

みちのくの風鈴土佐の風に吊る

刈谷 志津

いにしえの心にありて白きバラ

楠目 哲郎

水打って少しの涼を楽しめり

中野 好子

夕日のあかく燃えて原爆忘

友草 水月

盆の月記憶の糸をたぐり寄す

間 浩太

年問えば開いて二本指涼し

簡井 文

地球儀をくるくるまわし涼しけり

弘瀬うき子

朝顔を数えて老の童ごと

伊藤 たみ

逸る気を押えつつ待つ火花かな

森岡 照月

築山の椅子は石白吉備の秋

井上 郁子

赤トマトリコピン取りたく一つもぐ

立木ゆう子

ふる里の涼しき風に心解く

川村千図子

ひまわりの大輪愛でも八十路なる

大平 種香

孫囲み話題広がる夏休み

藤田 里野

屯して異口同音に暑さ言う

松尾満津於

お詫び

九月号の流水俳壇で次の句が脱落しておりましたのでお詫びしてこの欄に掲載します。

老鶯の声を聞きおり休み石

片岡 包女

次 題 「当季雜詠」五句

締め切り 毎月15日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

・屋内 公民館、図書館
募集期間

・鉄製枠円錐形イルミネーション
10月13日(金)

・その他の作品
11月30日(木)

問い合わせ
いの町商業振興会

(いの町商工会内)
☎ 892-0474

高知県最低賃金 改定のお知らせ

高知労働局では、県内すべての労働者に適用される「高知県最低賃金」を改定し、10月1日から施行することとしました。

この決定により、10月1日以降分として労働者に支払う賃金は、1時間615円以上としなければなりません。

問い合わせ

高知労働局 賃金室

☎ 885-6024

高知労働基準監督署

☎ 885-6031